

第 28 回防災文化講演会「東北メディカル・メガバンク計画からみえてきた震災後の健康状況と災害への備えの重要性」を開催しました(2019/01/26)

テーマ：地域医療、被災者の健康課題

URL：<http://irides.tohoku.ac.jp/organization/kesenuma/kouenkai.html>

1月26日(土)に、気仙沼市役所ワンテン庁舎大ホールにて、第28回防災文化講演会(主催：東北大学災害科学国際研究所、東北大学東北メディカル・メガバンク機構 共催：気仙沼市)を開催しました。当研究所は平成25年7月に「気仙沼市と国立大学法人東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定」を締結するとともに、気仙沼分室を気仙沼市内に設置して、防災・減災や復興の推進に連携して取り組んでいます。その活動の一環として、防災に関する講演会を年に数回開催しています。

第28回を迎えた今回は、東北大学東北メディカル・メガバンク機構との共同主催により、「東北メディカル・メガバンク計画からみえてきた震災後の健康状況と災害への備えの重要性」をテーマに4つの講演を行いました。講演では、ゲストとして気仙沼市立病院・横田 憲一副院長から「高齢化社会に新市立病院が果たす役割」、以後は本学の東北大学東北メディカル・メガバンク機構・濱中洋平講師から「ToMMo クリニカル・フェローの地域医療支援活動」、東北大学東北メディカル・メガバンク機構・實澤篤教授から「被災後の健康二次被害を防ぐために一地域住民コホートの分析から」、最後に当研究所および東北メディカル・メガバンク機構の栗山進一教授(災害医学研究部門)から「三世代コホートからみえてきた子どもと若年成人の健康課題とその対策」と題して講演を行いました。全体進行は、佐藤翔輔准教授(情報管理・社会連携部門)がつかめました。35名の方にご参加いただきました。市民のみなさんから多くのご質問をいただき、盛会のうちに終わりました。



講演①・気仙沼市立病院・横田 憲一副院長



講演②・東北大学東北メディカル・
メガバンク機構・濱中洋平講師



講演③・東北大学東北メディカル・
メガバンク機構・實澤篤教授



講演④・栗山進一教授

文責:佐藤翔輔(情報管理・社会連携部門)